

グローバルコモンズにおけるフェアトレードプロジェクト

団体名●FTGs(高原ゼミ)／代表者名●水野朔良(人文学部国際文化学科3年)

はじめに

FTGsは、「環境に負荷のない、体に良い、フェアは値段で手に入れた食材と地元の食材を使い商品開発をし、石川県の学生や地域へ宣伝、“フェアトレード”の持続的な流通を促すこと」を目的とし、「商品開発の達成」と「学食や地域での販売」を目標に掲げ、1年間地域連携プロジェクトという活動に取り組んで参りました。

我々が、フェアトレードの促進活動に取り組んでいる「背景」には、「金沢をフェアトレードタウンにする」という目標を掲げたフェアトレード金沢推進委員会にFTGsが所属していることが挙げられます。そもそもフェアトレードとは、単刀直入に言うと「公正な貿易」のことです。貧困のない公正な社会をつくることを目指し、途上国の経済的社会的に弱い立場にある生産者と経済的社会的に強い立場にある先進国の消費者が対等な立場で行い、かつ、環境や品質に配慮した持続可能な取引のサイクルを作り出しています。「フェアトレード」が推進されている背景としては、世界に強制的な児童労働をさせられている人たちがいる、搾取されて長時間労働を迫られている人たちがいるという現状があるということです。目を背けずにはいられない悲惨な問題を解決するべくFTGsは微力ながら動いています。

活動内容

フェアトレードフェスタでは、ミサングワークショップ、委託販売、ファッションショーへの参加を行いました。委託販売ではシャプラニールと第三世界ショップの商品を実際に販売しました。販売する前に、そのお店の商品や背景について調べPOP作りを行い、当日にお客様に商品の説明をできるようにしました。また、FTGs独自のブースでは、バングラデシュで生産された「リサイクルサリー」を使った、ミサング体験と販売を行いました。ファッションショーの係は、自分たちで選んだフェアトレードの衣装を着てインタビューに答えました。事前準備としては、各自で服を調べたり、フェアトレードに詳し

い方にお話を聞いたりし、本番のインタビューに備えました。「ポージングがワンパターンになってしまった」「もっと端的にわかりやすく説明する力が足りなかった」など至らぬ点もありましたが、各自フェアトレードの理解を深め、来場した方々に製品の魅力をお伝えすることができました。

次に、フェアトレードプリンの学食共同開発から校内販売にかけて実際の過程を詳しく述べていきます。フェアトレードの素材、地元の素材を使用し、フェアトレードプリンを開発し、サエラ定食のデザート、単品デザートとして校内販売をいたしました。校内販売において、まず初めに学生の需要を知ることが重要だと考え、Google formを使用したアンケート調査を行いました。合計448名の星稜大学生の方々より回答を頂いた結果、1番人気であったプリンを選択しました。使用したフェアトレード材料は、フィリピン産のマスコバド糖です。フェアトレードタウン金沢推進委員会の方々より、金沢星稜大学生の人々にフェアトレードを身近に感じてもらいたいという思いで、ご提供いただいたものです。また、その他の牛乳などの材料に関しては、全て石川県産のものを取り入れました。学生や金沢のフェアトレード団体を巻き込んで、店長を始めとする学食の方々とFTGsのメンバーで作上げたプリンは大変好評で、見事に完売にいたしました。また、フェアトレードに関心を抱いてもらうために広告作りにも工夫をいたしました。ポップな見た目で若者受けを狙い、目を引くような宣伝ができました。

最後に、金沢大学フェアトレードサークルのKuLOs前代表による講演会について述べていきます。主にフェアトレードサークルの先輩としてFTGsへのアドバイスについてのお話をいただきました。講演会を開いて頂いたと同時に、“フェアトレード食材×規格外野菜”をメインに調理をし、味わいました。フェアトレードだけでなく、国際的なフードロスの問題にも目を向けることができました。お野菜は、地元の市場である薄井青果様より、“学生の皆にも課題を考えてもらいたい”という思いか

ら提供していただきました。どうしたら廃棄野菜が減るのか・・・?、“美味しいのに捨てられるのはもったいない”、“今のままでは農家さんの努力が無駄になってしまうのではないか。”と考えるきっかけになりました。

成果、結果の考察

2022年度の地域連携プロジェクトにおいて、我々が掲げた目標に対する達成度を数値で表すと50パーセントです。学食を提供しているファインミール様とコラボレーションをさせていただき商品開発をし、校内販売を実現することができた点において達成することができました。一方で、目標を100パーセント達成できなかった要因は、地域での販売にまで至らなかった事です。「地域と連携し、活性化させる」という地域連携プロジェクトの趣旨を完全な形で実施できなかった為、とても悔しい思いで溢れています。失敗や経験を活かして目標達成に向けて頑張ろうという闘争心に火がつかしました。

今後の課題、展望

今後の課題としては、定期的な活動を行うことです。2022年度は、不定期な活動頻度であったためチームのモチベーションを持続することが困難でした。来年度は、一人一人が活動に主体的に参加できるような仕組み作りを整えていきます。

今後の展望は主に3つあります。1つ目は、2022年は、未達成だった企業との商品開発を達成することです。FTGsのプリン商品開発の実績を生かして頑張ります。2つ目は、KuLOsとイベントを共同開催することです。県内のFTGsと同様な志を持っているフェアトレードサークルとコラボレーションをし、地域を巻き込みながら発信することで、より双方の学生や、金沢市の学生にフェアトレードの重要さを広めることができると考えております。3つ目は、県外のフェアトレードサークルや団体と活発的に交流することです。県を超えて全国的にFTGsの知名度をあげ、活動の規模を大きくし、更にフェアトレ

ードに関する活動を活性化させます。

最後に、地域連携プロジェクトの活動において行ったフェアトレードプリン開発・校内販売は、FTGsのメンバーはもちろんのこと、沢山の方々の支えがあってできた活動であると実感しております。来年度は、さらに校内の枠組みを超え活動範囲を広げていき、地域にもフェアトレードを発信できる団体になれるよう熱い志を持って頑張りたいと思います。最後に、FTGsに関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます



プリン販売のための試食会